

YouTubeチャンネル「カンテレNEWS」 チャンネル登録者が1年で34万人増 今後は過去作や海外版の配信も

報道局報道センター
プロデューサー
宮田輝美さん



報道局報道センター 記者
井上真一さん

報道局報道センター
ディレクター
上田大輔さん



ドキュメンタリー配信開始で 登録者数急増

——「カンテレNEWS」のチャンネル登録者がかかなり伸びています。
井上■「カンテレNEWS」は2019年12月にYouTubeの配信を始めました。2023年9月に登録者が20万人を超え、今年5月10日現在で48万人くらいなので、この1年で急速に数が伸びています。

ドキュメンタリー番組の配信は関西の放送局では弊社が最後発なのですが、ここまで多くの方に注目されている理由は2つあると思っています。

理由の1つはサムネイルやタイトルの付け方を試行錯誤のうえで工夫していること。もう1つは、これまで深夜の放送では届かなかったドキュメンタリーの関心層に番組が届き、そこから広がっていったということです。

私は昨年9月からウェブ配信の担当になりました。デジタルアートを得意とする社員の佐々木かえでもチームに加わり、ピンクを基調にしたサムネイルのデザインやフォントの視認性を高める工夫を凝らすなど、視聴者に届く方法を模索しました。その結果、視聴者に動画のサムネイルが表示される“インプレッション数”と“クリック率”が格段に高くなりました。

また、長尺の動画はインプレッション数が増える傾向があり、ドキュメンタリーの全編を配信する取り組みに力を入れたことで、登録者数が急速に伸びました。

——ギャラクシー賞入賞の「引き裂かれる家族 検証・揺さぶられっ子症候群」も全編が配信されています。

上田■私が担当した「逆転裁判官の真意」も含めて、地上波では届かない視聴者層にリーチできているという印象を持っています。例えば「引き裂かれる家族」ですと、いわゆる法曹、医療、児童福祉の関係者などからも反響があり、YouTubeの効果は絶大だと感じています。

宮田■深夜の放送だけで終わっていたドキュメンタリーを、ちょっとした出口を広げたいという思いで昨年9月にこの取り組みを始めました。最近は既存の価値観が崩壊しつつあり、正しいと思っていたものが必ずしもそうではないと気づき始めている。そんなときにドキュメンタリーは新たな価値観や逆から見た真実を提示できるんじゃないかと思っています。

YouTubeだったら通信環境さえあれば誰でもその人のペースで見ることがができます。見られなくても仕方がないと思っていた深夜のコンテンツが、400万回近く見ていただけて、とてもありがたいです。

関西ローカルの番組を 全世界へ発信していきたい

——今後の動画配信の取り組みについてお聞かせください。

宮田■眠ったままの過去の番組も多いので、配信用に掘り起こしていきたいです。年間6本の放送分については、配信も見据えながら取り組むようにしています。

過去作については、取材対象の環境が変わっていたり、権利処理などさまざまな課題がありますが、使用できる映像はできれば全編を流していきたいと思っています。

井上■現在「引き裂かれる家族」の英語版、フランス語版、スペイン語版を作成しています。今後関西ローカルでしか放送されなかったようなドキュメンタリーを、全世界へ発信していきたいですね。

上田■SBS（揺さぶられっ子症候群）は世界的に論争が続いている問題です。現在フランスでもSBS裁判が増えているようで、今回「引き裂かれる家族」のフランス語版の制作も予定しています。番組配信をきっかけに、日本のSBSに関する議論の状況を世界で広く知ってもらえたら、作り手として嬉しい限りです。

オススメコンテンツ



「引き裂かれる家族
検証・揺さぶられっ子症候群」

「ふたつの正義」「裁かれる正義」に続く「検証・揺さぶられっ子症候群」シリーズ第3弾。家族を引き裂く「虐待冤罪」被害の全貌を描くドキュメンタリー。第61回ギャラクシー賞入賞。



from
YouTube

ドキュメンタリーには YouTubeと相性の良い素晴らしい作品が多々あります。ただ、サムネイルとタイトルでその内容がわかりづらいと、視聴者に選ばれにくいものです。作品を多くの方に届けるために、今回のように制作と配信のご担当者同士で連携して対応いただくのが理想です。